

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (62) エンドルの口寄せの女

イスラエル人は、唯一の神を信じ、その神からのみ、託宣、みづけ、霊の力を受けると信じています。神の名によって祈る時にのみ、神の言葉や霊の力が与えられるのです。従って、自分で呪文を勝手に作り、祈る人、霊媒、口寄せ、魔術師などは死罪にされ、それに寄り頼むことは律法で厳しく禁止され、汚れた者として排除されるのです。(レビ19:31)

さて、サウル王はペリシテ人が戦いを仕掛けている今、頼りの綱のサムエルはすでに亡く、不安に慄きました。サウル自身が追放した口寄せ、魔術師に託宣を求めようとしたのです。サウルの家臣は国境の北のエンドルに口寄せの女を見つけました。サウルは変装して、口寄せの女を訪ねました。



John William Waterhouse

口寄せの女は、これは罾ではないかと怯えました。サウルは彼女に決して咎を負わせないと誓い、サムエルを呼び起こしてもらいたいと頼みました。彼女はその願いを聞き入れました。

「神のような老人が上着をまとって地から上ってきます」と彼女が言います。サウルもサムエルだと認め、なすべきことを教えて下さいと頼みます。サムエルの返事は以前にもサウルがサムエルから告げられていた通りの言葉でした。サウルが主に従わなかった故に、主はサウルから離れたこと。そして、ダビデに王国を渡すという言葉でした。さらに重大な事が告げられました。



James Tissot

主はあなたのみならず、イスラエルをもペリシテ人の手に渡される。明日、あなたとあなたの子らはわたしと共にいる。主はイスラエルの軍隊を、ペリシテ人の手に渡される。(サム上 28:19)

「戦いに負け、明日、死ぬ」という予言でした。ただ、死の世界ではサムエルが共にいることも告げています。サウルはたちまち地面に倒れ伏し、絶望、恐怖の淵に落ちてしまいました。この様子を見て、口寄せの女は、サウルに優しい言葉をかけ、現実的な対処を申し出るのです。

「はしめはあなたの声に聞き従いました。命をかけて、あなたが言った言葉に聞き従ったのです。今度は、あなたがはしめのための声に聞き従ってください。ささやかな食事をあなたに差し上げますから、それを召し上がり、力をつけてお帰りください。」(サム上 28:21)

彼女は肥えた子牛を屠り、種なしパンを焼き、強いてサウルに食べさせました。力を失ったサウルの側に寄り添い、慰め、力づけ、サウルを行くべき道へと押し出すのです。彼女はイスラエルでは忌むべき職業の口寄せですが、彼女の行為はどれだけサウルを慰めたことでしょうか。

死人の霊を呼び出したり、死人を自らの体に移らせて死人の言葉を語るなど、常識では理解できない行為です。死人になっても、生前に語った言葉が、死人の言葉です。かつては聞きたくなかったことをもう一度、確認し、納得したいということなのではないでしょうか。口寄せの女の行為はある意味でカウンセリングに似ています。現実に向き合うことが苦痛であり、受容できずに、魂を病むことは誰にでもあります。そのような時、傍らで、本人の納得がいくようなプロセスを経て、現実を見つめ、対処する方法を自分なりに得るように、助けるのがカウンセラーです。口寄せの女は魔術を弄してサウルを錯覚、倒錯の世界に入れたのではなく、悲しいけれども、現実に向かわせました。

人間は自分が何を求めて生きているのか、分からない時があります。真実に、心を込めて、言葉を交わし合って、神を知ろうとする時、心の闇に光が射してくるのではないのでしょうか。